

保育原理

平成 2 9 年度
前期 5 問

問 1 次の文は、「保育所保育指針」第 1 章「総則」3「保育の原理」の一部である。【Ⅰ群】の項目名と【Ⅱ群】の記述を結びつけた場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

【Ⅰ群】

A.保育の目標 B.保育の方法 C.保育の環境

【Ⅱ群】

ア 保育室は、温かな親しみとくつろぎの場となるとともに、生き生きと活動できる場となるように配慮すること。

イ 保育所は、入所する子どもの保護者に対し、その意向を受け止め、子どもと保護者の 安定した関係に配慮し、保育所の特性や保育士等の専門性を生かして、その援助に当たらなければならない。

ウ 保育所は、子どもの人権に十分配慮するとともに、子ども一人一人の人格を尊重して保育を行わなければならない。

エ 子どもの発達について理解し、一人一人の発達過程に応じて保育すること。その際、子どもの個人差に十分配慮すること。

(組み合わせ)

	A	B	C
1	ア	イ	エ
2	イ	ウ	エ
3	イ	エ	ア
4	ウ	ア	イ
5	ウ	エ	ア

「保育所保育指針」第1章「総則」3「保育の原理」には次のようにある。

保育の目標 イ

保育所は、入所する子どもの保護者に対し、その意向を受け止め、子どもと保護者の安定した関係に配慮し、保育所の特性や保育士等の専門性を生かして、その援助に当たらなければならない。

保育の方法 ウ

子どもの発達について理解し、一人一人の発達過程に応じて保育すること。その際、子どもの個人差に十分配慮すること。

保育の環境 ウ

保育室は、温かな親しみとくつろぎの場となるとともに、生き生きと活動できる場となるように配慮すること。

問 2 次の文は、「保育所保育指針」第 1 章「総則」の（ 2 ）「保育の方法」の一部である。

（ A ）～（ C ）にあてはまる語句の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- ・一人一人の子どもの状況や家庭及び地域社会での生活の実態を把握するとともに、子どもが（ A ）を持って活動できるよう、子どもの主体としての（ B ）を受け止めること。
- ・一人一人の保護者の状況やその（ C ）を理解、受容し、それぞれの親子関係や家庭生活等に配慮しながら、様々な機会をとらえ、適切に援助すること。

（組み合わせ）	A	B	C
1	安定感と充実感	意欲や態度	意向
2	安心感と充実感	意欲や態度	要望
3	安定感と信頼感	思いや願い	意向
4	安心感と信頼感	思いや願い	意向
5	安定感と信頼感	意欲や態度	要望

「保育所保育指針」第1章「総則」の（2）「保育の方法」には次のようにある。

- 一人一人の子どもの状況や家庭及び地域社会での生活の実態を把握するとともに、子どもが
安心感と信頼感を持って活動できるよう、子どもの主体としての思いや願いを受け止めること。
- 一人一人の保護者の状況やその意向を理解、受容し、それぞれの親子関係や家庭生活等に配慮しながら、様々な機会をとらえ、適切に援助すること。

問 3 次の【Ⅰ群】の記述と【Ⅱ群】の法令等を結びつけた場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

【Ⅰ群】

- A.1899（明治 32）年、文部省令として公布され、幼稚園の保育目的、編成、保育内容 などに関して国として最初の基準を定めた。
- B.1926（大正 15）年、わが国で最初の幼稚園に関する単独の勅令として公布された。
- C.1948（昭和 23）年に文部省から出された幼児教育の手引書で、幼稚園のみならず保育所や子どもを育てる母親を対象とする幅広い手引書となった。
- D.1951（昭和 26）年 5 月 5 日、日本国憲法の精神にしたがい、児童に対する正しい観念を確立し、すべての児童の幸福をはかるために制定された。

【Ⅱ群】

・ア 児童憲章	(組み合わせ)		A	B	C	D
・イ 保育要領		1	ア	ウ	エ	オ
・ウ 幼稚園保育及設備規程		2	イ	ウ	エ	ア
・エ 幼稚園令		3	ウ	ア	エ	イ
・オ 児童福祉法		4	ウ	エ	イ	ア
		5	エ	ウ	イ	オ

解説

●幼稚園保育及設備規程

1899（明治32）年、文部省令として公布され、幼稚園の保育目的、編成、保育内容 などに関して国家基準として示したものである。

●幼稚園令

1926（大正15）年、わが国で最初の幼稚園に関する単独の勅令として公布された。
これは学校教育法の公布・施行に伴い1947年（昭和22年）3月31日で廃止された。

●保育要領

1948（昭和23）年に文部省から出された幼児教育の手引書。幼稚園のみならず保育所や子どもを育てる母親を対象とする幅広い手引書となった。保育内容は、見学、リズム、休息、自由遊び、音楽、お話、絵画、製作、自然観察、ごっこ遊び、激遊び、人形芝居、健康保育、年中行事と幅広く、子どもの興味や自発性が尊重された。

● 児童憲章

1951（昭和26）年5月5日、日本国憲法の精神にしたがい、児童に対する正しい観 念を確立し、すべての児童の幸福をはかるために制定された児童の権利宣言。

● 児童福祉法

1948年（昭和22）年12月12日制定。児童の福祉を担当する公的機関の組織や、各種施設及び事業に関する基本原則を定める法律。

問 4 次の出来事を年代の古い順に並べた場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

A. 保育所保育指針の告示

B. 認定こども園制度の発足

C. 児童福祉法の改正による保育士資格の法定化

(組み合わせ)

1 A → B → C

2 A → C → B

3 B → A → C

4 C → A → B

5 C → B → A

回答

5

解説

C

児童福祉法の改正による保育士資格の法定化ー2003年（平成15）



B

認定こども園制度の発足ー2006年（平成18）



A

保育所保育指針の告示ー2008年（平成20）

問5

次の文は、「保育所保育指針」第1章「総則」の（1）「保育の目標」の一部である。

（ A ）～（ C ）にあてはまる語句の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

（ A ）の中で、言葉への興味や関心を育て、話したり、聞いたり、相手の話を（ B ）しようとするなど、言葉の（ C ）を養うこと。

（組み合わせ）	A	B	C
1	遊び	受容	表現力
2	生活	理解	豊かさ
3	生活	受容	表現力
4	遊び	受容	豊かさ
5	生活	理解	表現力

回答

2

解説

保育所保育指針」第1章「総則」の（1）「保育の目標」には次のようある。

生活の中で、言葉への興味や関心を育て、話したり、聞いたり、相手の話を理解しようとするなど、言葉の豊かさを養うこと。